

# 中小・ベンチャー企業の抱える問題

平成17年3月1日

株式会社インクス

代表取締役 山田 眞次郎

# 特許庁の問題

- 新しい技術と概念について特許庁が判断できないのが問題。
- まず拒絶するという審査スタンスでは新しい知財は生まれにくい。
- 特許庁の審査は待ち時間が多すぎる。今の時代のスピードに合わない。
- 明細書の日本語は難解であり、中小企業のハードルを高くしている。

## 審査官・弁理士の問題

- 審査官も弁理士もなかなか新しい技術を理解してくれない。
- 弁理士は明細書作成が上手な人は高齡である一方、高齡の弁理士は新しい技術に疎い。

# 中小・ベンチャー企業の抱える問題

- 中小ベンチャーから出願が出にくい由縁は、
  - 資金的余裕が無いこと(出願に金がかかる、年金が大変)。
  - 弁理士に発明内容を伝えきれないこと。
  - 自分の技術のうち何が特許になるか分からないこと。
  - 特許出願の仕方がわからないこと。
- 外国出願をする資金的余裕はなく、まずは国内出願となる。
- 大企業との関係
  - 技術、ノウハウがとられてしまっっては中小・ベンチャーは育たない。
  - 発注や契約の仕方も巧妙であり、訴訟をやっても勝ち目はない。
  - 中小企業の知財担当は社長一人というところが大部分であり、訴訟をやっていたら会社が潰れてしまうので、結局泣き寝入りになっている。

# 水際対策の問題

- 特許権侵害品の判断は、高度な専門的、技術的知識が求められるものの、裁判所の利用は中小企業にとって負担が非常に大きい。(訴訟をしていたら会社が潰れてしまう。)
- 技術判定機関やITCといった、中小企業が利用しやすい金のかからない行政制度を整備すべき。
- 偽ブランド品の売買を抑止するため、個人による偽ブランド品の所持や輸入を法律などで禁止すべき。

# 営業秘密の国外犯処罰の問題

- 刑事罰の導入の方向性が出たことは評価するが、効果を発揮するためには実際に摘発することが必要。(一罰百戒)